

(問) 景気対策として集中的に行われた公共投資は本当に経済効果があったのですか？そのツケが現在の財政状況の悪化の原因になっていませんか？

(答) 景気対策としての公共事業が有効かどうかについては、様々な意見があり見解も分かれています。本県の経済は公共投資の果たす役割が全国に比べても高く、また、バブル崩壊後本県の景気は全国に比べ比較的堅調に推移したことなどを勘案すると、公共投資の増加が本県の景気を下支えしてきたと考えています。

また、道路などの社会資本整備の水準が低い本県においては、景気対策として行った公共投資によって、例えば、平成8年に90.4%であった国道の改良率が平成18年には92.3%まで上昇するなど、交通基盤の整備という点では大きな効果がありました。

このような公共投資の拡大が、県財政が悪化した要因の一つであることは否めない事実ですが、その後の経済の低迷に伴う税収入の減少や三位一体の改革による大幅な地方交付税の削減も大きな要因となっています。

平成6年度以降に完成した主な道路

道路名	供用開始
国道389号 高浜バイパス	H6.4
国道266号 薺町橋	H7.2
一般県道八代港線(臨港道路)	H8.3
国体関連道路(通称「東西線」「南北線」)	H11.3
熊本高森線 俵山バイパス	H15.10
近見高架橋	H16.3